

福田でみつけた自然

「ふくだ社協」71号（4月発行）の1面に掲載された写真について、ご紹介します。



「トキワマンサク」中国原産で、普通マンサクといえば黄色の花が咲くが、葉も赤みを帯びていて、写真の花は「ベニバナトキワマンサク」という。



ベニバナトキワマンサク



コバノミツバツツジ

ツツジは桜が終わったころ里山を彩り、よくツツジのトンネルを見かけていたが、最近は少し少なくなってきた気がする。何種類かあるが、福田の近くでは「コバノミツバツツジ」が多いと感じる。



アケビの花と実



最近の子どもたちは、あまり「アケビ」の実を食べないようだが、私の幼い頃はよく口に含んだ種を飛ばして遊んだものだ。



右上 「ヤマフジ」は房が短く蔓が右巻きで、左巻きのノダフジと見分けることができる。

右 フジ棚には、房が長くなる品種が多く使われている。





ソメイヨシノ

「ソメイヨシノ」は、植物組織を人工的に増殖させるクローン技術により1本の木から始まり、咲く時期がほとんど同じであり、散るときも同時期である。



ヤマザクラ



「ヤマザクラ」は野生種の1種で、特徴として花と葉が同時に出る。この種から品種改良されたものが園芸品種として何種類かある。



「コブシ」早春に他の2種に先駆けて咲く。もともと寒い地方に自生している。

「タムシバ」モクレンやコブシによく似ているが、コブシは花びらの下に葉が1枚出ている

福田の山肌に咲いているのはタムシバで、コブシは庭木や公園でよく見かける。



ハクモクレン



タムシバ

「モクレン」コブシやタムシバと違って中国から入ってきた。ハクモクレンとシモクレンがあり、庭木として多く植えられている

春の草花



「ショウジョウバカマ」 朝鮮半島、台湾や日本などの限られた地域に生える珍しい花であり、この福田で見られることに感激している。



右上「フデリンドウ」。右は「ハルリンドウ」。最近近くではほとんど目にしなくなった。どちらも見た目はよく似ているが、1本の茎から複数の花が出ているのがフデリンドウで、ひとつの花が出ているのがハルリンドウである。



レンゲの花

「レンゲソウ」以前は多く水田の窒素肥料として植えられていたが、化学肥料が出始めてその場を追われてしまった。



「シュンラン」

身近にある蘭は、とても貴重な存在。でも、最近ほとんど見かけなくなった。



「スミレ」山の上から道端まで、どこでも見られる可憐な花である。種類も多く濃い紫色から薄紫、そして白まで、まるでグラデーションを見よう。



「ツルニチニチソウ」今ではどこでも群生しているのを見かけるが、元はヨーロッパ原産で鑑賞用として輸入されたものが帰化した。



オニノゲシ



イワニガナ

「オニノゲシ」畑などでよく見かけるが、ヨーロッパ原産の帰化植物とは知らなかった。

「イワニガナ」(ジシバリ) ジシバリとはよく言ったもので、集団で生えている姿を見ると納得してしまう。

春、里山に昆虫たちが帰ってきた

ナミテントウ



ひと口でテントウムシといっても多くの種類がいる。上に挙げた画像はすべて **ナミテントウ**である。ナミテントウにはいろいろ模様の、違った個体が存在する。昆虫には、時々こういった個体の変異がある種類がいる。



コマルハナバチ 2枚の写真はどちらもメスで、オスは体全体が黄色い毛に覆われている。

蜂というと針で刺すイメージがあるが、この蜂は基本的には温和で刺さないが、メスは強く刺激されると刺すことがある。

触らぬ神に祟りなし…だ。



ベニシジミ 春から晩秋にかけてよく見かける、とても可憐なシジミチョウである。幼虫はスイバやギンギンを食べて育つ。左の写真は春型で鮮やかな色をしているが、右は夏型で黒色がかっている。

赤木通信員